

第3回二本松市未来戦略会議 会議録

日時 平成31年2月15日（金）午後2時～午後4時

場所 二本松市役所「正庁」

1 開 会

（企画財政課長）

皆さんこんにちは

本日は、何かとご多用のところ、ご出席を賜りありがとうございます。
た。

只今より、第3回 二本松市未来戦略会議を開会いたします。

はじめに、市長よりごあいさつ申し上げます。

2 市長あいさつ

みなさま、こんにちは、本日は、何かとご多用にもかかわらず、第3回二本松市未来戦略会議に、ご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、市政各般にわたりまして、格別のご支援とご協力を
いただいておりますこと、心より厚く御礼を申し上げます。

この会議は、二本松市の将来の飛躍と恒久的な繁栄・発展を目指して、
全ての市民が幸せを実感でき、50年先、100年先、次世代を見据え
た礎を築くために、市の特性を活かした自律的で持続的な都市づくり
に向けて、専門的な知識及び民間の経営的な観点から各界、各層からの幅
広い、ご意見、ご提言を頂くために開催するものであります。

これまで、8月と11月に、合計2回の会議を開催させていただきました。
た。

前回の第2回会議では、糠沢様、栗田様、太田様より、レポートの提出
を頂くとともに、皆様から様々なご意見やご提言を賜り、誠にありが
うございました。

また、福島大学の伊藤様におかれましては、コーディネーターとして、
会議の進行や、取りまとめに、ご尽力いただきまして、改めて感謝を申

申し上げます。

あらためて、前回は振り返りますと、糠沢様からは、二本松市の自然環境等の地域資源や歴史上の遺産、更には、二本松市が輩出した偉人等を再認識するとともに、メディアを活用した情報発信について、お話をいただきました。

栗田様からも同じように、二本松には多くの歴史資源があり、これを地元の方が二本松に愛着をもって歴史に誇りをもてる人材育成が必要であり、売り出し方、発信の仕方に工夫が必要であるとのことのご提言がありました。

太田様からは、観光資源としての、歴史や文化も大切であるが、やはり「食」がキーワードになるのではないかとの、お話がありました。

そのほかの方々よりも、たくさんのご意見を頂戴いたしました。

私は、皆様からのご提言を真摯に受け止めさせていただき、実現可能な取り組みから、早速、市政運営に反映させていただきたいと考えております。

本日も、皆様から忌憚のないご意見、ご提言を頂ければ、幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

(企画財政課長)

次に、若干の事務連絡を申し上げます。

本日の会議の議事録及び議事要旨並びに会議資料は、原則、公開とさせていただきますが、公開することが適当でない事案もあるかと思われまので、その都度、お申し出、頂くか、会議終了後に事務局までお知らせ願います。

また、本日の終了予定時刻は、午後4時とさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、議題、意見交換に入りたいと思います。

ここからの進行は、コーディネーターといたしまして、福島大学副学長 伊藤 宏様をお願いしておりますので、伊藤副学長、よろしくお願いいたします。

(伊藤コーディネーター)

それでは、よろしくお願ひいたします。2時間くらいの会議を3回開催して、これだけのものをまとめるとなると至難の業と思っています。どのようにまとめていくか悩んでいるところです。今後の進め方、あるいはまとめ方につきましては、後で事務局とも事前に相談しておりますので、説明させていただきます。まず本日の会議にあたってレポートを出していただいた委員の方々から、説明、報告をお願いしたいと思います。それでは三浦委員からお願いいたします。

(三浦委員)

私の出身地で、町おこしのプロジェクトをしている同級生との話の中で、詳しい方がいたのでプロの方に相談した。二本松を知らない人からみるとこういう宣伝文句なのかと作成していただいた。私が作ったものではないが、ひとつのプランとしてこういう考えもあると参考にさせていただければと思います。彼らは基本的なコンセプトがあって、重要なのはきちんとした目標を明確に数字にする。数字的なものにしないとあまりうまくいかないという。目的だけだとすると、ぼけてしまうというご指導をいただきました。もう一つのキーワードは、人が集まる起爆剤が必要だと考えています。全国的にも何かこれだという印象をつけて、それからいろいろ進めていくことが良いのではとのアドバイスをいただいた。

高村光太郎（台東区）と智恵子の出生地での姉妹都市の交流をするという案もあります。例えば、老後の生活をどうするか。興味のある方は二本松に来て住みたいと思う方もいるのではないかと。

(伊藤コーディネーター)

質問、ご意見があればお願いします。

(伊藤コーディネーター)

福島県伊達市では、健康都市宣言と目標など同じで健康寿命をいかに長くするのか。単に生きているだけではなく、元気な時間を長くしましょうと取り組みをされています。災害については、全県で取り組んでお

りますし、若者の地元定着については地域にとっては重要な問題ですが、文科省でCOC+という事業があり、5年間で県内の就職率を10%上げるという目標がある。その目標に向かって4年が過ぎようとしています。いろいろなところで進行しているものや、他の自治体で関心をもっていただいているとの印象をもちました。次に進みたいと思います。次は関委員から説明をお願いいたします。

(関委員)

昨日、開催されたJAの会議の出席者が60人くらいで、90%以上が高齢の方でした。若い方が少ない。持続可能や多様化と言いながらも、農村はそうではない。持続可能ではなくなっている。改めて実感しました。やはり農業・農村というのは二本松市で占める割合が多くありますし、さまざまな機能をもっているところです。実際農村にいと後継者がいない。平均年齢が上がっていく。農業は国際競争にさらされている。昔の農業は遅れている。農村とはダメなところというイメージで、どんどん若い方が出て行っていたが、その流れが大きく変わってきている。就農・定住の相談を受けるが、若い方が都会で居場所がないとの思いを持たれていて、農村の暮らしを話すと居場所があって皆を助け合っている。お互いに互助的に生きている姿に、すごいあこがれがある。更には自分で自然に働いて、恵みをいただくというあこがれをもっている方がたくさんいる。それをキャッチしていかないといけない。アピール・情報発信していけば、若者に振り返ってもらえる。振り返った若者に対して何をしないといけないのか考えると、今の農村が斜陽化していった理由をつきつめて、いかないといけないと思った。昔の方々はその地域で生きることが暮らしであり生業であった。地域のために何かすれば、自分のような自分の家の発展＝地域の発展だということで、集落、共同住宅ができた。今はそれが重荷になっている。地域が生業の場になるように、地域の発展が自分の家の発展になるようなしくみをつくっていかないといけない。若者に場を与える。チャレンジしてもらおう。そうあってほしい。今の若い方が勉強して、人の繋がりをもっている方がいるので、新しくできる夢が叶えられるとのアピールをすると来ていただけると思います。更には来た人を育てなければいけない。農村に誇りをもつ

てもらうために学んでいただきたい。子供達に伝えて誇りをもっていただきたいと思います。今、一般的なグリーンツーリズムなど人が来ていただけるような取り組みにしていけないといけない。何か一つでもモデルとしてしっかりつくって、ここに来て安心して暮らせる。生業としてやっていけるというものを見せながら、都会の若者が二本松に住みながら農業をしていけば、少しずつ農村が持続可能になっていくのかと思います。あきらめずチャレンジし続ける。私を含めて新しい人も住んでいる人もみんなチャレンジできる場であってほしいと思います。

(栗田委員)

人が集う農村ですが、都会は一人暮らしの人が、コンビニがあれば生きていけるという生活ですが、やはり非常に味気ない。人とのコミュニティ、交流ができないことですが、一方で2地域に居住するスタイルや都会にも市民農園がある。それを本格的に滞在型の市民農園が各地にできつつある。平日は仕事をして、土日を中心に地域の方に教えていただきながら農業をする。いつか農村に行く魅力的なものがあるのではないか。是非、第2のふるさとに進めていただけたらと思います。

(三浦委員)

町全体で収入も必要である。二本松を好んで来るような材料も市としては、やるのであれば頭にいられたほうが良いのではないのでしょうか。

(伊藤コーディネーター)

ありがとうございます。只今のお話しなにかございますか。それでは、太田委員お願いいたします。

(山崎委員)

関さんは移住して、地域のために一生懸命がんばってくれて、来てくれて宝だと思います。東和では定住促進など力を入れていて、がんばっていらっしゃる。隣の岩代も住みたいという人はいるというニーズもあるので、何とか受入れをできないのかと、5~6人で1年くらい岩代の良いところや悪いところを話し合い、千葉出身のお寺のご住職が代表で活

動してきたが、実際仕事を持っている人達が、深く関わることができず、とても残念に思います。これだけニーズがあるので、行政が受け皿になってウエルカム二本松のようなことができないか。不動産などと定住促進のチームづくりはどうかと考えています。以上です。

(伊藤コーディネーター)

今年の4月に福島大学の食農学類という農学部が開設されます。福島県には農学部が無かった。これからの福島の農業に少し貢献できるのではないかと思います。福島大学と二本松市は協定を結んでおりますので、いろいろな形で勉強していただければ良いと思っています。食農学類と連携をとってやっていただければ良いと思っています。

(栗田委員)

日本としてはスイスの国際経営開発研究所の魅力度ランキングでは、63か国中51位という非常に評判が悪い。地方の方が自由に壁を乗り越えることができるのではないか。例としては岐阜県可児市の人口が10万人で、6,740人の外国人が暮らしている。外国人の就学義務の対象としてこなかった外国人児童生徒370人の全員調査を行った。不就学の者が25人(6.8%)いることがわかった。これを0人にしようと取り組み未就学ゼロを実現した。いろいろな日本語指導教室や学校の中にも、ポルトガル語をいれて進めて行った。外国人の生徒さんが県の高校に受験して進学や定住するようになる。可児市がジモトと呼べるように評判が良い一つになっている。二本松でもできるのではないかと思います。若者の受け入れについて、イギリスで始まったギャップイヤーというしくみがあって、大学入学前や途中から数ヶ月から2年間を、社会体験しながら高校や大学で勉強をする。日本ボランティア学習協会で受け入れている。イギリスの非営利組織と提携し、北海道の洞爺湖町などで、若者2人1組で1年間を地域の英語の学習の補佐や、市民の生涯学習をお手伝いする。ギャップイヤーの制度を利用して、長期滞在していただくということがあります。日本の若者については、ボランティアワークキャンプという取り組みがあります。国内では3泊から6泊、海外では2週間前後でワーク(公益的な仕事)をする。地域に滞在しお手伝いする。

二本松でも外国人によるモニターツアーを企画して、意見・魅力など発見していただくプランを考えてはいかがでしょうか。

(伊藤コーディネーター)

ありがとうございます。残念なことに福島空港では、震災以来、国際便の定期便が無くなってしまった。今度、台湾からはチャーター便で月1~2便はありますが、福島市の方は仙台空港を利用する方が多い。インバウンドは二本松市だけではなく、広がりをもった形で考えないと難しいのではないのでしょうか。今度、郡山市の広域の連携の中に二本松市が含まれる話がある。

(三保市長)

郡山市の広域連携都市圏構想に二本松市も参画する。それは猪苗代町や須賀川市など石川町管内それらを圏域とした広域連携都市、観光など公共施設の共同利用、産業振興などがあります。二本松市は福島市と郡山市の中間に位置しており、郡山都市圏と福島の広域として、福島市は白石市、米沢市、伊達市、二本松市、本宮市、大玉村が加盟して、二本松市と本宮市と大玉村はどちらにも参画する。インバウンドも観光など共通する課題について取り組みました。

(太田委員)

二本松を地元と思う外国人と二本松にボランティアを学びに来る若者と両方実現している。JICA 出身の方と全国いろいろな所でお会いする。あまり交流がないのはもったいないと思います。

(山崎委員)

観光の話ですが、一昨年12月に市の派遣で、台湾を誘客活動目的で行ってきました。安達太良山の雪や紅葉に目を輝かせていましたし、田舎暮らしに対しても大変興味をもっていただいた。一番の興味は桜でした。桜の時期に誘客することが良いと思いました。二本松市は長い期間、桜が楽しめるため観光の力になると思います。他の地域との連携も必要ですが、二本松に長期滞在していただくために、そば打ち体験や各施設

で組み合わせることができると思いますが、これをまとめるコーディネーターが二本松には必要で、育てていくことが重要だと思います。

(飯田委員)

インバウンドというと外国人の観光客が非常に人気のある京都を別に、飛騨高山、城崎温泉がある。不便利でも昔ながらの町並みが美しいというのが非常に重要だと思います。山村の話ですが、農業だけではなく新しく来た方が起業できるようなプラットフォームが方向性として出てくる。地域環境差の成功例を洗い出しながら考えて、二本松でも出来るのではないかと思います。

(三保市長)

桜の話がありましたが、全国都道府県の訪日外国人インバウンドの伸び率の調査発表があり、1位が鳥取県で伸び率が189.6%、2位が福島県184.6%です。福島の花見山、二本松の桜、三春の滝桜、会津若松、喜多方は、JR只見線の秘境を通るルートの特長が選ばれた。この地域にお住いの方は当たり前ですが、決して当たり前ではなく台湾に行って感動をいただいたということですが、そういう特徴を活かしながら磨き上げて情報を発信していくことが、大事だと思います。

(伊藤コーディネーター)

ありがとうございます。二本松の特徴を活かすなどのキーワードとして、未来戦略会議のまとめを出したいと思います。個別に具体的なご提案のアイデアを会議の場とペーパーで出させていただいております。個別に具体的なことは、大きな提言やビジョンには入りにくいものがあります。未来戦略会議の主な意見、施策反映状況は、既に1回目、2回目でご提言いただいたようなことを市の施策の中に、どのように反映されているのかということをお説明しております。

(事務局遊佐)

事務局です。未来戦略会議の主な意見、施策反映状況を簡単に説明申し上げます。1回目、2回目で皆様からご意見等いただいたものの要約で

ございます。市民全体で二本松の良さを再認識するから始める。現在、市の方で霞ヶ城公園のところに文化観光施設というものの建設を予定しております。三保市長になりましてから、単なる観光の施設ではなく、皆様からお話しがあった通り二本松の偉人が、市民自らが誇りとして、市民が学んで知ることが出来るというような歴史を学べる。更には観光それを情報発信できる機能をもたせることで、これを平成33年度までにオープンさせたいということで、具体的な機能を市の方で検討しているところでございます。皆様からのご意見を十分取り入れながら、良いものにしていきたいというところで、検討を進めているところです。先人偉人、歴史のある先人に学ぶということで、二本松戊辰史発刊を来年・再来年にかけていろいろな見識者のご意見や、文献等をまとめました戊辰戦争や二本松城の記録などをまとめる冊子を発刊したいと来年度から実施していきたいというところです。二本松少年隊検定授業ということで、二本松青年会議所の方で、2～3年位前から始めておりますが、市内の小学校に出前授業を青年会議所の方々が出向きまして少年隊の歴史について、子供達に学んでいただいて、検定書を発行するという取り組みを行っている。市の広報戦略を強化するというので、三保市長の方から予算に関わらず、出来るものは速やかに実施しようということで、本年から定例記者会見を毎月開催する。遅ればせながらSNSでの情報発信は3月から取り組みます。市内全ての行事「すてきな情報」マスコミへの投込みを強化していきたいということで、既に実施しているというところでございます。都市と農村が均衡ある発展を遂げられるようにということで、先ほどの関さん、山崎さんのご提言がありましたが、二本松市、地元の生業を農業が主体であったように、さらに未来戦略会議を発展させるために農業に趣をおいて二本松市農業未来戦略会議の名で、来年度から農業について何か新しいアイデアを見識者の方からご意見をいただき開催していきたいと考えております。二本松が輩出した先人、偉人を知るということで、こういったことを実施しております。実際に自分が体験して得たものは、一番役に立つということで、和紙漉き体験やスキー教室も実施してございます。少年隊顕彰祭、二本松の提灯まつりを市民部の共同地域づくり推進事業を引き続き取り組んでいきたいということでございます。市内の全小中学校に電子黒板のセットを配置し、

ICT 教育環境の整備ということで、来年度から二本松市内の小学校・中学校それぞれに電子黒板（ICT）デジタル教育に取り組んで行きたいと考えてございます。先ほど山崎さんからもありましたが、観光の面でいろいろな良いものをどう組み合わせていくか。コーディネート力が足りないのではないかとということもございました。二本松 DMO を去年の 10 月に設立してございます。これからどう活かしていくかということで、皆様のお知恵を拝借しながら、より良いものにしていきたいと取り組んでまいりたいと考えてございます。こちらの DMO につきましては、昨年 10 月に設立されまして、専門機関でありますじゃらんから 1 名派遣をいただきまして、専門的な目で DMO の運営にあたっていただいております。ただこの方だけではなかなかまわりきれない部分もございますので、是非地元の皆様のご協力を得ながら市民、市内全域で盛り上げていきたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いしたいと思います。先端産業の集積ということで、長命工業団地、国道 4 号沿い、市役所から南に 2km 杉田地区の長命地区というところに約 10 ヘクタールの工業団地を本年中には分譲しまして、企業誘致に繋げていきたいというところがございます。最後になりますが、三浦委員からもありましたが、日本一の『健幸長寿都市・二本松』ということで、新たな政策パッケージとして展開、市役所はどうしても縦割り行政ということで、それぞれにいろいろな事業をやっておりますが、これを横断的に取り組んでいく。健康部門に関しては健康づくりであったり、スポーツであったり、高齢者の部門であったり、企画の部門であったり総合的に協力して健康づくりについて、来年度から取り組んで進めてまいりたいということでございます。未来戦略会議で出た意見で既に二本松で取り組んでいくもの、取り組もうとしていて決定しているものを提出させていただきました。事務局から以上でございます。

（伊藤コーディネーター）

1 回、2 回の会議で皆様のご意見を施策の中に取り入れつつありますし、これから出来るものから取り入れていただくことだと思います。この会議としてどういうものを提言していくかということですが、実は総合計画は 2020 年までになりまして、2021 年から総合計画をたてるにあ

たっの指針の参考にしていただけると思っています。市民や若者や子供を含めて具体化していくほうが良いと思っております。福島市では高校生や大学生や民間の事業の従業員達を集めて会・市民ワークショップを作って総合計画をたてる時の参考になるような議論をしていただく。須賀川市がシンポジウムで20年後の須賀川市を考えるというテーマで、高校生や大学生の若者を集めてグループワーク的なことを進めています。今回の会議の中で具体的なものを議論していくのも難しいので、今まで市の方から説明がありましたように選別が必要かもしれませんし、出来ることから徐々に進めていただいているところでございますので、我々が作れるものとしては若干抽象的なものになると考えております。前回、キャッチフレーズ、キャッチコピーを作ったらどうかという話がありました。市役所の職員にキャッチコピーを募っていただいた。二本松市とわかるものを市民が共感できるキャッチコピーが良いのではないかと。1～13の中で個人的には二本松らしさが出ていて、誰にも二本松とわかるような提言をするにあたっての一つのキーワード、キャッチコピーになりそうなものが、④番「ほんとうの空のもとで 見つける 本当の幸せ」、⑤番「ほんとの空の下に 笑顔あつまるまち にほんまつ」と私は思いました。

(佐藤委員)

二本松市役所の玄関に松を2本にして、にほんまつとわかるようにしたらいかがですか。ほんとの空や安達ヶ原の鬼婆の話を芝居にできるように、少しのアイデアで変わるのではないかと私は感じています。市全体であるものを利用して、宣伝をするというようなことを進めていただきたいと思います。

(伊藤コーディネーター)

他の所と比べて、二本松が劣っているとか勝っているとか考えていくとなかなか難しい。二本松のたくさん良いところを二本松の中でより仕分けする。イノベーション、革新とは新しいものをつくるのではなく、今あるものの新しい組み合わせで良いということですので、既にあるも

のをいかに組み合わせさせてみせることが大事だと思います。

(山崎委員)

キャッチコピーの⑤番「ほんとの空の下に…」を「ほんとの空のもと」に変えた方が良いのではないのでしょうか。

キャッチコピーの⑨番も良いのですが、「蘇る」とは震災の復興というイメージですが、復興ではなく新しいものを作っていくといけないのではないかとの議論もありますので、④番、⑤番の方が個人的には良いと思います。今日の会議で決まらない時は、事務局の方に一任いただいて、ご提示するという事にさせていただきます。今まで2回の会議の中で出たキーワードをどのように組み合わせていくか何らかの形で、提言できるのかという、今の地方が抱える人口の減少ということで、交流人口それを定住人口に繋げるということなのかと思います。定住人口増加は難しいのではとのご指摘もありますが、現実問題からすれば増加ではなく、維持ということですが、高い志でいくつか交流人口の増加、定住人口の増加あるいは維持ということでご提言をさせていただきました。キーワードや将来ビジョンについてという私のまとめについて、何かご要望ご意見がございましたらお願いいたします。

(三浦委員)

キャッチフレーズを作ることは重いと思います。例えば、「ほんとの空のもと 二本松」はわかりやすいキャッチフレーズだが、サブキャッチフレーズが繋がるものを考えていただきたいと思います。

(栗田委員)

ほんとの空は、二本松を表しているし、二本松の自然を表している。その後に本当の幸せや笑顔というものを実現するために、戦略や施策が必要だと思います。

(三浦委員)

代表で二本松と書いて、一過性だけではなく継続性で考えて二本松らしい農業、工業、再生エネルギーなど繋がるイメージがあっても良いの

ではないか。

(伊藤コーディネーター)

今後の進め方も含めてご意見をいただきたいのですが、今日のご意見を基に事務局と相談をしてもう一度戦略会議の提言という形でキャッチフレーズを含めて作成し、最後の会議ですので、次は郵送又はメールでみなさんにお示して最終的に修正、ご意見をいただいたものを3月中にまとめたいと思います。何かアイデアがありましたらお願いいたします。

(飯田委員)

キーワードと提言に地域を循環するしくみのエネルギーも必要だと思います。

(栗田委員)

だいたい議論が出尽くしたということでしょうか。ビジョンについて案として出されているものを残った時間で、もう少しブラッシュアップしてはいかがでしょうか。

(伊藤コーディネーター)

最大公約数的なものをまとめると、それほどインパクトがないものになってしまう。健康寿命は良い話で、これから取り組まなければならないと思います。これを入れるとすれば、この後の二本松の総合計画の中に、これを意識した形でやっていただきたいと思います。具体的になればなるほど意見がわかる可能性があるので、あえて抽象的なことにした。

(三浦委員)

市として重要な決定だと思います。日本全国、目新しいものはなく、どこでも実施している。人口増加についても同様である。農業、産業等の育成と発展がないと人口増加にはならないのではないかと。市としての方針は難しいと思います。個別の会議を開催し、かなり具体的な戦略を

練っていかないといけないと思います。

(伊藤コーディネーター)

抽象的でもつまらないし、具体的過ぎても今後の足かせになる可能性もある。そこまで議論を行ったかを問われても我々は責任を持ってない。市全体のあり方について、議論する趣旨ですから個別の事案について、具体的に提言をすることは難しいと思います。今後そういうかたちで議論してくださいというような、道標程度のものと認識しています。キャッチフレーズの次のもう少し具体的なものは避けたいと思います。

(栗田委員)

整理させていただくと、キャッチコピー・キャッチフレーズというのは、二本松の食や産業や生き方にさまざまなもののブランドの象徴的なものを出して、次にキーワードが出てくる。最終的に提言が今までの会議で出た議論を文書化したものがつくのかとイメージしますがよろしいでしょうか。

(三浦委員)

ほんとの空のもと、ほんとの〇〇、いろいろあると思います。そういうものを全部包括したようなものが、もしもあるとすれば、幸せや笑顔が包括する概念と思います。

(栗田委員)

結局、人口を減らしたくないということが目標で、ビジョンと言っても交流人口や定住人口を増やしたい。減らさない人口の7万人を確保したい。要するに幸せが得られるから住むのであって、人口を保つということは、そこに住む幸せがあるからだと思います。二本松に住むことが他の地域に住むより幸せや便利だと思うから住んでいる。定住人口を減らさないということは、二本松を幸せに感じている方が多いということだと理解しています。

(三浦委員)

市としての機能を考えた時に、一定以下の人口になった時に脆弱になっていくので、一定の人口が必要である。交流人口、定住人口というキーワードがなかった時に、今までのキーワードや提言をどういうふうにまとめるかという見つからなかった。箇条書きではなく、箇条書きを一つにまとめるものはなにか。コンセプトやキーワードのようなものを考えた時に人口減をいかに抑えるか、交流人口を増やし定住人口は減らさないというのが、市としてのひとつのありかただと思います。

(山崎委員)

⑤番「ほんとの空のもと…」の後には、愛があると良いのではないかと思いました。「ほんとの空のもと 愛があつまる(愛があふれる)にほんまつ」が良いのではないかと思いました。

(佐藤委員)

二本松の商店街が無くなってしまふのではと心配しています。商売をする人がいなくなってしまうのではないか。すぐに進めなければならないことがたくさんあるのではないか。市民もそうですが、商店街で働く方にもこれからのことをしっかり認識させることが重要だと思います。

(三浦委員)

慎重に話を進めて、あまり変わらないワードで、確保しなければいけないのは、福祉社会を実現するための経済的なものを両立させていくこと。商店街・農業・観光・温泉もある。それぞれをどうしていくかということが必要になってくる。

(中野委員)

キーワードで「ひと等」のところで子育て支援を通して、支えてくださっている方々は、市民の皆さんで助け合っている。人と人が繋がって人を助けるというものを二本松の強みにしていただきたいと思っています。愛、やさしさ、人の良さとあるのですが、人を活かすというのも、若者の力を活用することにも繋がるとは思います。若者以外にも人を活かしてそれを強みにする。そういうものをキーワードとして、具体的に

あっても良いのではと思いました。

(事務局)

これまで3回にわたり、委員の皆様には、活発なご議論を頂きまして、誠にありがとうございました。

また、伊藤先生には、コーディネーターをお努めいただき、スムーズな会議運営を頂きまして、あらためて感謝申し上げます。

これまでいただきましたご提言につきましては、伊藤先生と調整をさせていただき、事務局でまとめさせていただきます。

出来上がりましたら、皆様にお送りさせていただきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

それでは、これにて、二本松市未来戦略会議を終了といたします。

本日は、ありがとうございました。